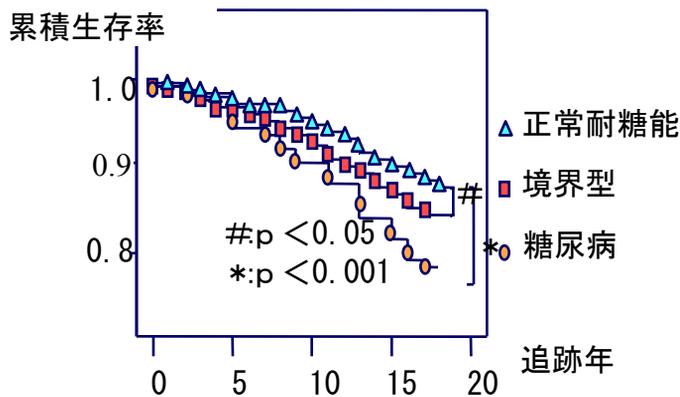


研究内容の要約: 内科学第二講座(第二内科)では、高血圧、脳卒中、心臓病の病態解明とその予防戦略構築のため、北海道の2町で前向き疫学研究を30年間にわたり継続している。これは端野・壮瞥町研究として知られるようになったが、日本人一般住民での高血圧や糖尿病などリスクファクターの頻度や脳卒中、心臓病発症における寄与などを検討し、その成果はわが国の循環器疾患の予防と管理のガイドラインのエビデンスとなっている。

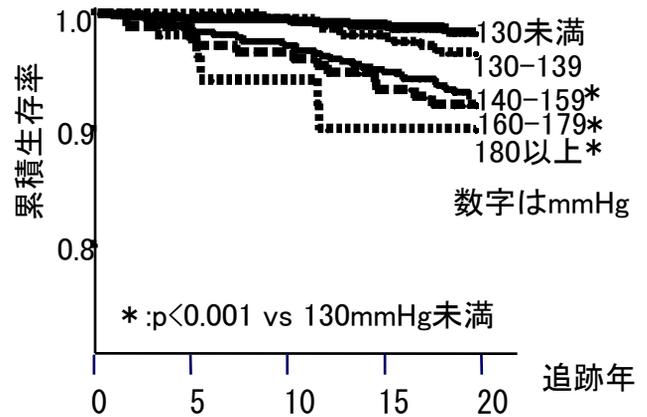
端野・壮瞥町研究 (前向き疫学研究)

耐糖能と生命予後



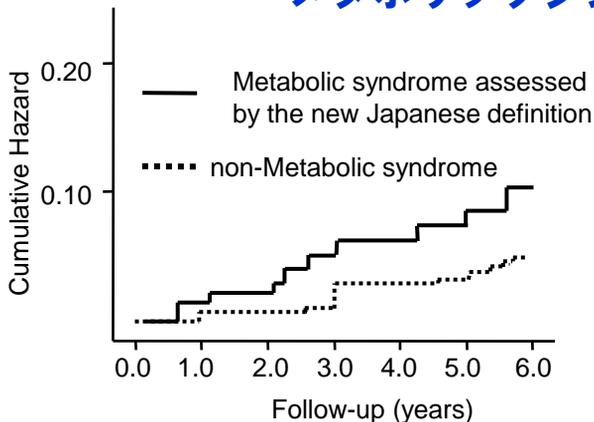
初年度の糖負荷試験による耐糖能型はその後20年間における生命予後を規定する。(カプランマイヤー法)

血圧値と心臓病・脳卒中死亡



初年度の血圧値はその後の心疾患・脳卒中死亡からの回避率(累積生存率)を規定する。

メタボリックシンドロームと心疾患発症



Cox's hazard ratio (95% confidence interval)

non-Metabolic syndrome	1.00
Metabolic syndrome assessed by Japanese definition	1.87 (0.87-4.00)

Adjusted for age, smoking and total cholesterol

End point: cardiac disease (angina, myocardial infarction, and heart failure) or death from such disease

今後、心臓病の予防方策として厚生労働省は肥満を基盤とするメタボリックシンドローム(腹部肥満に血圧高値、脂質代謝異常、空腹時高血糖の2者以上を合併する)を中心に据えることを決定している。端野・壮瞥町研究ではメタボリックシンドロームの対象は実際に心疾患が増加することを報告している。

(連絡先: ssaitoh@sapmed.ac.jp)